

日本リハビリテーション医学会ニュースNEXT!

NEXT!

リハビリテーション医学・医療の「今」がわかる情報マガジン

4号

2024.March



祝！医学会創立60周年
安保雅博理事長・副理事長メッセージ

第61回年次学術集会・第8回秋季学術集会ご案内
医学生セミナー・リハビリテーション科医になろうセミナー
第5回記者懇談会・第17回国際リハビリテーション医学会
若手海外研修特別補助・海外研修補助ご案内



公益社団法人

日本リハビリテーション医学会



第7回国際学術集会はシーガイア
コンベンションセンターで開催



日本医科大学附属病院リハビリテーション科



第17回国際リハビリテーション医学会 (ISPRM2023)



第7回国際学術集会 YIA 最優秀賞受賞者



第60回国際学術集会は福岡国際センターで開催



藤田医科大学病院リハビリテーション科



第61回国際学術集会が6月13日から開催される渋谷



理事長ご挨拶

公益社団法人日本リハビリテーション医学会理事長
東京慈恵会医科大学 リハビリテーション医学講座 主任教授

安保 雅博



創立 60 周年を祝して

はじめに 2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震の被災者の皆様にお見舞い申し上げ、被災地の医療支援に尽力された会員の皆様に心より感謝いたします。

日本専門医機構が定める 19 基本領域 19 医学会の 1 つである本医学会が、昨年創立 60 周年を迎え、新たな一步を踏み出しました。理事長として、さらには第 61 回日本リハビリテーション医学会年次学術集会会長として、2024 年度もさらに粉骨碎身努力する所存です。

リハビリテーション医学は、さまざまな疾患・外傷・病態により生じた機能障害の回復を促しつつ、結果として残存した障害を克服しながら、人々の「活動を育む医学」ですが、本医学会の役割は、その機能回復と社会活動への復帰を総合的に提供することだと思っております。そのため医療の現場においてリハビリテーション科医自らがイニシアチブをとって診療に携わることを期待しています。また、リハビリテーション医療により障害を克服したいと願う患者さんが大変多くおられますので、その期待に応える治療結果を出せるように、患者さんと真摯に向き合い、治療技術を研鑽し、エビデンスを蓄積していくための切磋琢磨を本医学会で実践してまいります。

少子高齢化が進む中で、生活期における生活者の機能維持や改善に資する方法の確立がこの 5 年のうちに最も重要な課題になると思います。しかしながら、30 年後に日本や世界がどうなっているかを予想することは難しいですが、総合的に本医学会が不利益を受けないように、臨機応変に柔軟な対応ができる医学会づくりが大切だと考えます。2050 年問題として、人口減少に加えて超高齢社会による労働人口減少、AI 導入による就労環境の変化、地球温暖化の進展などが取り上げられています。リハビリテーション医療の重要性は当然のことですが、労働人口減少には AI やロボットの活用も含めた

対応が望まれます。家余りやインフラの老朽化による地方での人口構成の変化、自然災害や異常気象の増加によるさまざまな問題にも、リハビリテーション医療が対応していくことになると思われます。

医学会運営に関しては、私が理事長を拝命して以来、若手会員の参加による組織全体の活性化に尽力しました。そして、リハビリテーション医学発展のために、他学会・協会とのより緊密な協力関係を推進していく所存です。

本医学会の国際誌「Progress in Rehabilitation Medicine」が米国 National Library of Medicine のフリーアクセス誌データベース PubMed Central® (PMC) に収載され、PubMed の検索対象となり 3 年半が経ちました。ご存知のように、全世界からフリーで掲載論文を閲覧することができます。また、本年 1 月には国内誌「The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine」の冊子体配布の廃止と完全オンライン化を実現いたしました。これらの取り組みは、一層、リハビリテーション医学の啓発に寄与することと思います。

現在、健康寿命の延伸が喫緊の課題となっていますが、それとともに超高齢社会を支える現役世代や将来を背負う若い世代の健康維持も問題です。また、障害を抱えていても社会への参加を実感できることは、心身を健やかに保ち幸福を享受するための絶対条件になります。

最近、これらの課題や問題にもリハビリテーション医学・医療は大きな役割を果たすことが期待されることを強く感じるようになりました。今後、その基盤となる科学的根拠の究明に資するとともに、社会および日常生活への復帰を機能的側面ばかりでなく社会的側面からも総合的に支援することにも尽力したいと思います。



副理事長のご挨拶



大阪医科大学 教授
佐浦 隆一

リハビリテーション医学の歴史の話になると、エジプトのミイラが着けていた世界最古の義肢(趾)が出てきますが、整形外科系と内科系という2つの流れが合流して「リハビリテーション医学会」になるというのは、同じくエジプトに例えると、白ナイルと青ナイルが合流しナイル川となって地中海に注ぐ様子を彷彿させます。どちらが白で、どちらが青かはご想像にお任せしますが、ナイル川はタンザニアに始まり、エジプトまで10カ国を流れ、その豊富な水は流域の国々に多くの恩恵を与えると同時に、さまざまな紛争の原因にもなってきました。2つの流れが合流したり

ハビリテーション医学という大きな川は、今では、医学・医療・介護・福祉・教育・研究と多くの領域を灌流しています。水道や電気は社会のインフラです。水や空気はあって当たり前、なくなれば困るどころか、生命にも関わります。多少の逆流や氾濫はあったとしても、日本リハビリテーション医学会は、医療・介護・福祉のインフラであるリハビリテーション医学のゆったりとした流れを枯らすことなく、いつでも、そして、いつまでも悠久と、その水量を保ち続けてもらいたいと心から希望致します。



医療法人久幸会 常務理事
島田 洋一

リハビリテーション医学はここ10年の間にAI、VR、ロボットなどテクノロジーの急速な進歩によりその形態が変わりつつあります。私は正にそのまっただ中で産学連携推進の立場でリハビリテーション医学と先端医用工学の融合、臨床応用、薬機法・保険収載に取り組んでまいりました。医工連携は国内の

みならず、国際的にも研究者、企業との深い連携が必要です。日本のリハビリテーション科医が目の前の臨床だけでなく、最先端医療の応用を積極的に取り入れる、いわばrevolutionが60周年を迎えた本医学会の進むべき方向かと再認識しております。



ちゅうざん会 理事長・ちゅうざん病院 院長
田島 文博

50周年記念誌を改めて読むと、寄稿された先生全ての喜びと、明るい未来を構築していくとする意欲に満ちあふれたコメントばかりでした。60周年までの10年間、安保先生が人材育成に並々ならぬ意欲を示され、着実に実践されていることに敬意を表しま

す。私におきましても、昨年の定年まで不十分ながらリハビリテーション科医育成にはそれなりに取り組んだなと感じます。今後も本医学会の発展と後進の指導に務めてまいります。



東海大学 教授
正門 由久

リハビリテーション医学の使命は、医学生を教育し、リハビリテーション医療を知る医師を育成すること、また将来のリハビリテーション医学・医療を担う優れた専門医、指導医、研究者、教育者を育成し、社会に貢献していくことです。ここ10年でさまざまな大学にリハビリテーション医学講座ができ、さらに日

本専門医機構による新専門医制度の基本領域にリハビリテーション科が入り、専門医はさらに増えています。今後10年で数を増やすばかりでなく、質の高いリハビリテーション医学・医療の研究ができる指導医が多くなり、ねずみ算式に質の高いリハビリテーション科医が育成されることを期待しています。



獨協医科大学 教授
美津島 隆

少子高齢化が加速する中、健康寿命延伸の力ぎを握るリハビリテーション医学・医療に注目が集まっています。さらに労働者不足を背景に、高齢者や障害を持つ者への社会資源としての期待が高まっており、それを支えるリハビリテーション科医を増やす必要があり

ます。今後もリハビリテーション科を選択する医師が増えていくことを切に望むとともに、若い医師がリハビリテーション医学・医療分野に興味を持ち、卒前・卒後を通じて医師としての矜持を持てるように教育していくことに取り組んでまいりたいと思います。

学術集会のご案内・お礼

2024年に開催する学術集会のご案内と、
2023年に開催した学術集会の会長から
お礼のメッセージが届きました。



会長
安保 雅博

東京慈恵会医科大学
リハビリテーション医学講座 主任教授

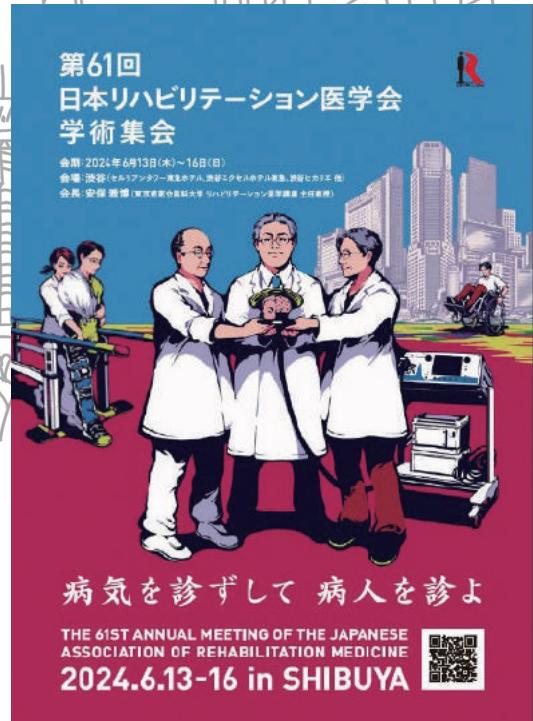
2024 6.13▶16

第61回日本リハビリテーション医学会年次学術集会

このたび、第61回日本リハビリテーション医学会年次学術集会を2024年6月13日(木)～16日(日)の日程で、東京の渋谷で開催させていただくことになりました。伝統ある学術集会を主催させていただきますことを大変光栄に存じます。当講座所属員一同が一丸となって準備を進めております。

開催地は再開発著しい渋谷で、セルリアンタワー東急ホテル・渋谷エクセルホテル東急・渋谷ヒカリエ・渋谷区文化総合センター大和田を会場として、現地とオンラインデマンド配信のハイブリッド開催を予定しています。また、この度の年次学術集会は、東急株式会社・株式会社東急エージェンシー共同提案体とともに開催・運営いたします。渋谷の中心地での開催となり、今までにない新しい形の学術集会となることから、そのインパクトや話題性は高く、多方面から注目いただける学術集会になるものと自負いたしております。

東京慈恵会医科大学は、学祖高木兼寛が1881年に



開設した成医会講習所を前身とし、それまでドイツ医学を中心に発展してきた日本の近代医学の中で、英国医学に源流を持つ数少ない医科大学です。そして学術集会のテーマには、当大学の建学の精神である「病気を診ずして病人を診よ」を掲げました。病気を治すだけではなく、病気を持った患者さんの苦しみをなくすこと、また、医学的力量だけでなく、人間的力量も兼ね備えた医師になれという意味が込められています。リハビリテーション医学・医療の原点に直結する言葉だと思いテーマといたしました。幅広く、ベテランから中堅、そして次代を担う若手まで、リハビリテーション医療にかかわるすべての皆様が興味をもって参加していただけるような、さまざまな企画を用意しています。

是非、ご参加いただき、学術集会とともに渋谷を楽しんでいただければと願っています。大勢の皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

2024 | 1.1 ▶ 3 第8回日本リハビリテーション医学会 秋季学術集会



会長

花山 耕三

川崎医科大学 リハビリテーション
医学



2024.11.1 fri - 3 sun

会長：花山 耕三 川崎医科大学 リハビリテーション医学
会場：岡山コンベンションセンター・岡山県庁会議室
主催：岡山県医学会センター・岡山シティミュージアム

Thank you

2023



2023年6月29日～7月2日
第60回日本リハビリテーション
医学会年次学術集会

会長 出江 紳一
東北大学 名誉教授、医療法人社団
三喜会 鶴巻温泉病院

テーマ：ScienceとArtをつなぐ
～これまでの25年とこれから
の25年～

会場：福岡国際会議場、福岡サンパレス、福岡国際センター

第60回日本リハビリテーション医学会年次学術集会は、4,500名超の方に参加登録を、そのうち3,000名超の皆様に現地にご来場いただき、盛会のうちに終了いたしました。オンデマンドのみでのご参加の皆様はもちろん、会場においてくださった皆様方のご支援ならびにご協力に深く感謝し、心よりお礼申し上げます。



2023年11月3日～5日
第7回日本リハビリテーション医学会
秋季学術集会

会長 佐藤 悅男
宮崎大学医学部整形外科リハビリテーション科

テーマ：リハビリテーション医学イノベーション
～継承と革新～

会場：シーガイアコンベンションセンター

学術集会のテーマですが、橋渡し研究（トランセラショナルリサーチ）の推進や治療法の開発には医学・医療の継承と革新が必須と考え、「リハビリテーション医学イノベーション—継承と革新—」といたしました。一般演題は671演題を採択し、さらに企業共催セッション13、ワークショップ2、専門医共通講習会、指導医講習会を実施し、基礎から最新の話題までご講演いただきました。各会場とも参加者は真剣に聴講し、その後熱心な討論が繰り広げられ熱気にあふれていきました。オンデマンド配信を含め2,655名の方々にご参加いただきました。参加者の皆様はもちろん、準備・運営にあたっていただきましたすべての方々に深謝申し上げます。

このたび第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会を2024年11月1日(金)～3日(日)の3日間岡山で開催することになりました。

学術集会のテーマは「リハビリテーション医学の広がり」とさせていただきました。本学術集会では、それぞれの分野のリハビリテーション医学の歴史に始まり、現在の旬の話題、今後の発展を見据えた内容を盛り込めばと考えています。

岡山は交通の便もよく、メイン会場となる岡山コンベンションセンターはJR岡山駅直結です。岡山では2022年に千田益生会長のもと、第6回の秋季学術集会が開催され、盛会裏に終えられました。今回はさらに充実した学術集会とすべく、鋭意準備を進めてまいります。本学術集会がリハビリテーション医学の発展に寄与し、参加者の方々がさまざまな知見に触れ、交流を深める場になれば幸いです。



国内誌の 完全オンラインジャーナル化 !!

国内誌「The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine」は、2024年1月より完全オンラインジャーナルになりました。



原著論文、総説といった学術論文や特集記事などは、医学会HP・会員専用ページ内のオンラインジャーナルやJ-STAGEから閲覧していただけますようお願い申し上げます。

会員専用ページ
(正会員、専門職会員、名誉会員、功労会員専用)

※会員専用ページへ「会員番号」と「パスワード」でログインしてください。「オンラインジャーナル」よりご覧いただけます。

※発行日に公開されます。
※ Vol.53～最新号



J-STAGE
(賛助会員、正会員、専門職会員、名誉会員、功労会員専用)

※発行後1年以内は公開を本医学会各員に限定しており、閲覧には「購読者番号（会員番号）」と「J-STAGE専用パスワード」の入力による認証が必要です。



NEXT! 15

医学生セミナー・リハビリテーション セミナーご案内

本医学会では、医学生やリハビリテーション科医に興味を持つ医師のために様々なセミナーや研修制度を設けています。オンラインで視聴できるものから病院での実践的な研修までありますので是非ご参加ください。

01

Web セミナー

2023年度「医学生セミナー【入門編】 医学生に知ってほしい リハビリテーション科医の仕事と魅力」 Web 視聴セミナー

2023年度にWeb上で開催した「医学生セミナー【入門編】医学生に知ってほしいリハビリテーション科医の仕事と魅力」の収録講演が視聴可能です。ご希望の方はQRコードからのアクセス後に青色のお申込ボタンからお申込みください。医学生対象ですが、医師の方も視聴可能です。



セミナー内容 (2023年8月19日開催収録分)

- リハビリテーション医学とリハビリテーション科医の魅力
- 1. 東海大学医学部専門診療学系リハビリテーション科学 水野 勝広先生
- リハビリテーション科医の働き方（急性期病院編）
- 2. 産業医科大学若松病院 田島 浩之先生
- リハビリテーション科医の働き方（回復期リハビリテーション病院編）
- 3. 関西電力病院 中濱 潤美先生
- リハビリテーション科医のキャリアデザイン
- 4. 国立長寿医療研究センター 健康長寿テクノロジー応用研究室 大高 恵莉先生



02

Web セミナー

2023年度「リハビリテーション科医になろうセミナー」Web 視聴セミナー

2023年度にWeb上で開催した「リハビリテーション科医になろうセミナー」の収録講演が視聴可能です。ご希望の方はQRコードからのアクセス後に青色のお申込ボタンからお申込みください。



第1回 (2023年6月11日開催収録分)

- 1. リハビリテーション医学の展望と医師の役割
愛知医科大学リハビリテーション医学講座 尾川 貴洋先生

- 2. リハビリテーション科ただいま研修中！
国立病院機構埼玉病院リハビリテーション科 速見 優希先生
広島大学病院リハビリテーション科 樽田 美穂先生

- 3. 受講者へのお知らせ
宮城厚生協会坂絶合病院リハビリテーション科 藤原 大先生

- 4. リハビリテーション科専門医が語る面白さ
和歌山県立医科大学附属病院紀北分院リハビリテーション科 南方 美由希先生
東京大学医学部附属病院リハビリテーション科 小林 美香先生



ン科医になろう



第2回 (2023年8月27日開催収録分)

リハビリテーション医学の展望と医師の役割

広島大学リハビリテーション科 三上 幸夫先生

リハビリテーション科ただいま研修中！

2. 佐賀大学医学部附属病院リハビリテーション科 佐藤 佑紀先生
旭川医科大学病院リハビリテーション科 石田 健一先生

受講者へのお知らせ

3. 京都府立医科大学大学院医学研究科リハビリテーション医学講座
垣田 真里先生

リハビリテーション科専門医が語る面白さ

4. 六甲アイランド甲南病院リハビリテーション科 松本 健先生
国立がん研究センター東病院リハビリテーション科
土方 奈奈子先生

第3回 (2024年1月28日開催収録分)

リハビリテーション医学の展望と医師の役割

獨協医科大学リハビリテーション科学講座 美津島 隆先生

リハビリテーション科ただいま研修中！

2. 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 塩山 勝介先生
兵庫医科大学さやま医療センターリハビリテーション科
長田 尚樹先生

受講者へのお知らせ

3. 愛知医科大学リハビリテーション医学講座 尾川 貴洋先生

リハビリテーション科専門医が語る面白さ

4. 下越病院リハビリテーション科 千葉 茂樹先生
がくさい病院リハビリテーション科 櫻井 桃子先生



2024年医学生セミナーについて

本医学会では、研修施設に協力を依頼し、医学生を対象としてリハビリテーション医学を学ぶための医学生セミナーを全国で開催しています。是非ご参加ください。受講者の感想文もご覧いただけます。



感想



2023年セミナー参加の 医学部6年生

リハビリテーション科を志望科としている私にとって、この2週間の実習は非常に有意義でした。

多くの学びがありました。実習先の病院は回復期のリハビリテーション病院であり、普段急性期の大学病院で学んでいる私には刺激的で、新たな物事の見方を手に入れることができたように思います。今回の実習で最も大きな学びは、リハビリテーション医療では「チーム医療」に重点が置かれており、医師はその中でもリーダーシップを取っていく必要がある職種であるということを再認識することができました。もちろん、チーム医療はどの診療科でも重要なものです、その重要性について理解しているつもりではありました。しかし、医師を始め看護師や薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、MSWなど非常に多くの職種が治療に関与するリハビリテーション科では、私の想像していた以上にチームとしての働きが中核を成しており、円滑なチーム医療が行われていました。



2022年セミナー参加の 医師5年目

レクチャー、患者診察、訓練見学、治療体験、検査体験、検査見学、カンファレンスなどを見学、体験することができ、とても充実したスケジュールで、あっという間の2日間のセミナーでした。充実したスケジュールの中にも適宜小休憩もあったので、疲れを感じることもなく、集中が途切れずに参加することができました。初めて見る検査や手技もありましたが、その場で丁寧にミニレクチャーもしていただいたので十分に理解することもできました。講義、見学、体験がバランスよくあり、大変満足のいくセミナーでした。

NEXT!



海外研修補助・若手海外研修 特別補助のご案内

本医学会では、会員の国際学会などの活躍を促進するために、「海外研修」と「若手海外研修」について2つの補助制度を設けています。特に若手会員（40歳以下）の国際的な活躍をサポートすることを目的とした特別補助は、アジア・オセアニア地域でのリハビリテーション医学関連学会が増加していることを鑑みて、2022年度から「若手海外研修特別補助」の対象地域を近隣諸国からアジア・オセアニア地域に拡大しました。

若手海外研修特別補助

補助対象 アジア・オセアニア地区のリハビリテーション医学関連学会（アジア・オセアニア地区リハビリテーション医学会（AOCPRM）やアジア・オセアニアニューヨーリハビリテーション学会（AOCNR）など）への業績発表を予定している医学会正会員

補助額 10万円

応募資格

- 応募締め切り日において年齢が40歳以下の医学会正会員であること
- 本医学会在籍3年以上のこと
- 同年度海外研修補助制度との併願はできない
- 過去に海外研修補助を受けていないこと

対象者数 1人

応募 毎年

予算 10万円



海外研修補助

補助対象 海外で開催されるリハビリテーション医学関連学術集会での発表もしくは海外のリハビリテーション医学関連施設への訪問・業績発表を予定している医学会正会員

補助額 最大30万円（渡航先地域、内容による）

応募資格

- 応募締め切り日において年齢が45歳以下の医学会正会員であること
- 本医学会在籍3年以上のこと
- 本医学会国際誌（Progress in Rehabilitation Medicine）または海外の学術雑誌にFirst Authorとしてリハビリテーション医学に関する原論文が1編以上掲載されているか、若しくは海外のリハビリテーション医学関連の学術集会あるいは国内外で開催された国際学術集会において外国語での発表の経験が1回以上あること
- 過去に本海外研修補助を受けていないこと（特別補助を除く）

対象者数 1人

応募 每年

予算 最大30万円まで（渡航先地域、内容による）

備考 学会参加に対する補助の内訳

- 現地での学会参加の場合：学会参加費+旅費（補助金額の範囲内で相当する額）
- Webでの学会参加の場合：学会参加費のみ
＊ただし2)のWebでの学会参加の場合のみ、翌年度以降の本海外研修補助に一回に限って申請することができる。



第17回国際リハビリテーション医学会(ISPRM2023) レポート

第17回国際リハビリテーション医学会 (ISPRM2023) が、2023年6月4日～8日、カルタヘナ(コロンビア)で開催されました。この国際学会に参加された広島大学病院リハビリテーション科三上幸夫教授と医局の皆様から写真とレポートが届きましたので紹介します。



Q. ISPRM2023に出席した目的

三上先生：今回はポスター発表と国際委員会委員としてネットワークをつくることが目的でした。

Q. 街と会場の様子



三上先生：開催地のカルタヘナは、コロンビア北部のカリブ海に面した港町で、世界遺産にも登録されている、歴史を感じさせる観光都市です。会場の入り口は特に大きな看板などはありませんでしたが、受付はすぐにわかりました。スポンサー企業のロゴが散りばめられたボードも展示されていました。

Q. 聴講したセッションとその感想

三上先生：一般口演や優秀ポスターセッションを聴講しました。口演会場は聴講者も多く、熱気を感じました。ポスターセッションはデジタルポスター閲覧でしたが、35%の演題は優秀ポスターとしてミニレクチャーがありました。

Q. 一緒に参加した日本人の先生方

三上先生：北海道大学の向野雅彦教授と兵庫医科大学の内山侑紀准教授が参加されました。内山先生は優秀ポスターを発表され、向野教授はパネルディスカッションなどで忙しくされていました。広島大学関連

からはポスター7演題を提出して、7名参加し、3演題が優秀演題に選ばれました。

Q. 展示、ウェルカムパーティー、アトラクションなど

三上先生：展示は1階ホールと2階廊下に多数企業が出展しており、活気がありました。一角にはコロンビア土産を販売するコーナーもありました。ウェルカムレセプション、ネットワークレセプションとも南米音楽と踊りが披露され、ネットワークレセプションは途中からダンス会場と化していました。



Q. ISPRM2023で印象に残ったこと

三上先生：ポストコロナを印象づける学会でした。マスクをした参加者はほぼ見かけず、参加者も企業展示もビフォーコロナに勝る数でした。また南米音楽とダンスが印象に残り、非常に活気ある学会でした。ウェルカムレセプションではWHOテドロス・アダメン事務局長のビデオメッセージが流され、ポストコロナの時期こそ、リハビリテーション医療の力が必要だと述べられておりました。さらに、2027年のISPRMはインドネシア・バリ島で開催されることが決定し、インドネシアチームは大変喜んで、日本からの参加を呼びかけていました。



取材にご協力いただいた先生：広島大学病院リハビリテーション科三上幸夫先生、上田幸樹先生、天野佐亞哉先生、広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門福原幸樹先生、浅枝諒先生、中島勇樹先生

能登半島地震被災地JRAT支援活動

リハビリテーション科医へのメッセージ

金沢医科大学リハビリテーション医学科 教授

石川 JRAT 代表

松下 功



このたびは、令和6年能登半島地震における被災者支援に全国地域JRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）の皆様から多大なご協力をいただき心より感謝申し上げます。JRAT活動には医師の帯同が必須です。今回参加申し込みいただいている地域JRATチームには少なからず医師が帯同していないケースがあり、石川本部でチームを再編するなど苦労しながら対応しています。災害は日本全国いつでもどこでも起こり得ます。被災者へ迅速でかつ十分なリハビリテーション支援をとどけるために、全国のリハビリテーション科医にはJRAT活動をご理解の上、ぜひこの機会に各県の地域JRATに登録していただくことを切に願っております。

能登半島地震被災地支援活動報告



by 広島大学病院リハビリテーション科

教授／広島JRAT代表 三上 幸夫

1 赴任エリアと赴任期間

輪島市輪島地区、輪島市門前地区、珠洲市、金沢市（いしかわ総合スポーツセンター）

2024年1月24日（水）～28日（日）
(広島JRAT第1次隊)

2 任務内容

- 1) 市町の調整会議に参加
- 2) 避難所アセスメント / 個別アセスメント（身体機能トリアージ）
- 3) 環境調整 / 個別・集団介入
- 4) 情報共有・申し送り



門前地区での調整会議参加

3 グループ編成

医師2名、理学療法士2名、作業療法士1名、言語聴覚士1名の計6名

4 任務終了後の感想・要望

広島JRATからはR-スタッフ、L-スタッフも派遣してきたが、今回、広島JRAT第1次隊は実際に被災地の避難所支援を行って来た。我々は1月25日にJRATとして初めて輪島市に入り、輪島地区と門前地区的支援活動を開始した。輪島市の被害は甚大であり、多くの避難所に住民が避難していたが、身体機能のトリアージは行われておらず、支援を行う避難所および避難者の選定に苦慮した。そこで輪島市門前地区では簡易身体機能トリアージ法を考案して、保健師、DMAT、JMATの協力も得て、全ての避難所で身体機能トリアージを実施した。このトリアージによって身体機能が低下した避難者の避難場所と数の把握が容易となり、以後の支援が進んだ。現在も被災地には多くの避難所に避難者が残っており、JRATの支援が必要な状況が続いている。



避難者支援



by 浜松医科大学医学部附属病院

教授／静岡JRAT代表 山内 克哉



1 赴任エリアと赴任期間

輪島市輪島地区、羽咋郡志賀町

2024年2月1日（木）～4日（日）(静岡JRAT第4次隊)

2 任務内容

- 1) 市町の調整会議に参加
- 2) 避難所アセスメント / 個別アセスメント（身体機能トリアージ）
- 3) 環境調整 / 個別・集団介入
- 4) 情報共有・申し送り

3 グループ編成

医師1名、作業療法士2名の計3名

4 任務終了後の感想・要望

静岡JRATは、熱海土石流災害支援の経験を活かして、今回の能登半島地震の支援に少しでも貢献したいと考えている。今回私達の隊は、第4隊となるが、今までの隊からの各地の情報は錯綜しており、実際の支援体制も地域差が非常に大きいという前情報をを持って支援に向かった。2月2日に、輪島市での支援活動を開始した。当日、愛知JRATから申し送りを受け、そのまま大分JRATに申し送りを行ったが、その申し送りもとりあえず避難所にままで行ってほしい、という内容であった。そのため、まず全容把握のため、輪島市の保健師と連絡をとり、輪島市の屋の調整会議に出席して、DMAT、JMAT、DHEAT、日赤チームなどと連携して、情報の共有と今後の支援活動の方針などを話し合ったが、どのチームも情報を掌握できていない状況であった。そこで、その後は愛知、大分JRATと協力して輪島市の各避難所を回り、避難者の身体機能トリアージや個別指導などを実施した。その後の2日間は、志賀町での活動となったが、こちらは保健師が全体の避難者を把握しているため、活動内容が明確であり、避難所移動に伴うアセスメントや避難所の環境調整を行政の方々とを行い、今後の避難所移転時のJRATとの協力体制を話し合った。短期間であったが、各地での情報共有の重要性と多職種連携を再認識した活動となった。3月1日現在、静岡から10隊を派遣している。さらなる支援を行い、災害関連死が予防できることを願っている。



第5回オンライン記者懇談会を開催

2023年9月20日に「日本リハビリテーション医学会第5回オンライン記者懇談会」を開催しました。今回は「日本リハビリテーション医学会設立60周年記念～超高齢社会の中でニーズが高まるリハビリテーション医療」というテーマで、安保雅博理事長と副理事長5人が発表しました。

説明終了後、記者からは「リハビリテーション医療を導入することが医療費削減につながったケースは多くみられるものなの？」という質問が上がり、田島副理事長が「試算が難しい地域が多いが、医療効率の指標であるDPCの基礎係数を用いた試算などで明確に効率が向上していることがわかる地域や医療機関もある」と回答されました。また「運動のがんの発症抑制に関する具体的な研究成果があるか？」という質問に対して佐浦副理事長が「運動はリハビリテーション医療の中でも重要な治療法のひとつで、運動療法のがん抑制効果については多くの研究成果が発表されている。特に最近は免疫を介した抗腫瘍薬と運動療法を併用することで得られるさまざまなメリットについての研究報告に注目が集まっている」と説明されました。記者からは、「理解が深まった」「また開催してほしい」という意見がありました。



ぜひお読みください！

日本最大級の医療専門サイト「m3.com（エムスリー）」に本医学会の記事が掲載されています。記事閲覧には登録（無料）が必要ですが、ぜひお読みください。

【連載記事内容】

- 「リハビリテーション」は医学用語ではなかった？!
<https://www.m3.com/clinical/news/1193053>
- 変わる「これ以上良くならない」の閾値
<https://www.m3.com/clinical/news/1193060>
- AI・ロボット時代に「寛容社会」実現の意義
<https://www.m3.com/clinical/news/1193061>

記者懇談会の詳細

■テーマ

日本リハビリテーション医学会設立60周年記念
～超高齢社会の中でニーズが高まるリハビリテーション医療～

■日時

2023年9月20日（水）
16:00～17:30（15:30受付開始）

■開催方法

Zoomによるオンライン開催

■テーマと説明者

（司会・挨拶）
公益社団法人日本リハビリテーション医学会 理事・
広報委員会委員長
東京医科歯科大学病院リハビリテーション科 科長
酒井 朋子

1 「日本リハビリテーション医学会60周年の歴史」（15分）

（説明者）
公益社団法人日本リハビリテーション医学会 理事長
東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座
主任教授 安保 雅博

2 「パラスポーツ、再生医療、急性期のリハビリテーション医学・医療」（15分）

（説明者）
公益社団法人日本リハビリテーション医学会 副理事長
ちゅうざん会 理事長 ちゅうざん病院 院長 田島 文博

3 「がんのリハビリテーション医学・医療と災害時のリハビリテーションアプローチ」（10分）

（説明者）
公益社団法人日本リハビリテーション医学会 副理事長
大阪医科大学医学部総合医学講座
リハビリテーション医学教室 教授 佐浦 隆一

4 「脳卒中・脳梗塞のリハビリテーション医学・医療」（10分）

（説明者）
公益社団法人日本リハビリテーション医学会 副理事長
東海大学医学部専門診療学系リハビリテーション科学
客員教授 正門 由久

5 「摂食嚥下のリハビリテーション医学・医療」（10分）

（説明者）
公益社団法人日本リハビリテーション医学会 副理事長
獨協医科大学リハビリテーション科学講座 主任教授
美津島 隆

6 「ロボットリハビリテーション」（10分）

（説明者）
公益社団法人日本リハビリテーション医学会 副理事長
医療法人久幸会 常務理事 島田 洋一



事務局からのお知らせ



年会費の納入について

既存の会員で口座引落の設定をされていない方へは、毎年4月5日正午時点の会員情報に基づき、4月25日頃、コンビニエンスストア払込用紙を郵送いたします。コンビニエンスストア払込用紙には使用期限がございます（通年3月31日）。期限を過ぎた場合には、次年度と合算の請求となります（2年分まで合算可能）。



●勤務施設にて個人会員の年会費をお支払いされる場合で請求書発行が必要な方、コンビニ支払い以外の金融機関からの振込（振込手数料はご負担となります）をご希望の場合は、詳細をメールにて事務局 office@jarm.or.jp までお知らせください。折り返し登録フォームをご案内いたします。

●年会費口座自動引落の手続きを完了されている会員は、毎年4月27日(2024年は4月30日(火))にご指定の口座から自動引落となります。

※2年間の会費未納の場合、会員資格が停止となりますのでご注意ください。

登録情報について

ご自身の会員登録情報は最新情報になっていますか？

送付先の住所に変更があった場合、登録情報が変更されていないと、本医学会からの大切なお知らせやご案内が届かなくなる場合がございます。登録情報に変更があった場合には、お早めに情報を更新していただきますようお願いいたします。

登録情報は会員専用ページへログインし、「登録情報の変更」から確認・修正が可能です。
<https://member-new.jarm.or.jp/mypage/>

詳細は本医学会ホームページ会員諸手続をご確認ください。右記のQRコードからアクセスできます。



海外勤務について

本医学会には休会制度がございません。海外へ留学・勤務等をされる場合は、下記（年会費納入）についてのご希望を事務局 office@jarm.or.jp までお知らせいただきますようお願いいたします。

- ・年会費を口座引落しに設定したい。
- ・年会費を前払いにて納めたい。
- ・一度退会して帰国後に再入会したい。（※資格をお持ちの場合は資格喪失となります。）

会員証について

入会いただいた方には会員カード（会員証）を郵送いたします。会員カードの表面には氏名、会員番号やQRコードが記載しておりますので大切に保管してください。なお、退会時には会員カードを返却していただきます。

